令和５年度

研　究　紀　要

秋田県立雄物川高等学校

《卷　頭　言》

アップデート

校長　下橋　実

2023 年９月、メリアム・ウェブスター社は 690 語の単語や成句などを新しく辞書に追加した。文化や社会、スラング、ICT 関連等々、毎年のアップデートとしては大規模だったようで、ＨＰには"Ngl, this update is a big one"とあった（ngl もその中に含まれており、"not going to lie"のこと）。時事的な言葉としては generative AI、green chemistry など も含まれていた。ちなみに 2022 年には 370 語、その中には日本語由来の omakase の他、ベトナム料理やメキシコ料理の単語が入っている。

本校担当の ALT に、以前と異なる意味をもつようになった単語を聞いてみたところ、"slay" を教えてくれた。意味は kill と同じで、「鬼滅の刃」の英語タイトル"Demon Slayer"に使われているが、スラングでは "Great!" の意味で "Slay!" や "That's so slay!" のように使うとのことであった。会話で "I made it!（やった！）" に対し、"Slay!（すごい！）" というやり取りだ。日本語の「ヤバい」の使い方と同じような例があるということだろう。また、ＮＨＫラジオを聞いていたら、"Get out（of here）!" が"No way!" や "You can't be serious!" などの「まさか！」の意味で使われるようになっていて、驚きを表す表現として紹介されていた。

変化が早く、人や文化の交流が盛んで様々な情報に溢れる今の時代は、時事問題やネット関連の情報等に意識的に触れて、知識や考え方をアップデートしないとあっという間に取り残されてしまいそうである。

社会が変化すると、言葉や社会の「常識」の変化はもちろん、人間に求められる資質・能力も異なってくる。教育の「不易と流行」を考えると、本校にとっての「不易」は本校独自の教育目標であろう。「豊かな人間性や創造性等、調和のとれた社会人としての資質・能力を養い、社会の進展に貢献する有為な人材の育成を図る」こと。そして、日々の授業においては、生徒の興味・関心を高め、意欲的に学業に取り組もうとする態度を育むことだと思う。一方の「流行」については、社会情勢や環境の変化を考慮に入れて今後必要となる考え方や技術を見定め、時代に合わせた具体的な方法を模索し、アップデートしていかなければならない。

そのためには、校外の研修会や講座に参加して得た学びを実際に現場で生かしたり、日常の勤務の中で気付いたことを具体化したりして、自分の『行動変容』『意識改革』を促していく意識が必要である。校内研修の公開授業研究会や相互授業参観週間、校外研修などでは、他の教師が行っている活動を参観し、様々な授業のアイデアに触れることができる。その中には、簡単に取り入れられる活動や、いつもの授業に改善を加えるヒントが多くあるはずで、「やってみる」姿勢が求められる。

ずいぶん前に、ある研修で講師が「何か良い活動を見たり自分で考えたりしても、やらず終いの人は多い。しかし、何でも思いついたことはやってみる価値はある。２～３回、あるいは数週間で中途半端にやめることになったとしても、『やった』という実績は残る。途中で断念したことが、数年後にアイデアとして現れ、改善を加えて優れた取組になったりするからだ。」と話していたことを今も思い出すことがある。

日々機会を捉えて知識や方法をアップデートし、新しいものを取り入れていく姿勢をもち続けたいものである。

令和５年度　雄物川高等学校　研究紀要

目　　次

《巻 頭 言》
・「アップデート」　校　長　下橋　実

目　次

《校内研修》　1
・令和５年度　各教科の重点目標と取組　2

・令和５年度　公開授業研修
芸術科研究授業　芸術科　細井　大成　5

家庭科研究授業　家庭科　小松　久子　9

・校内相互授業参観研修について　研修部　16

《経験年次別研修》　20
・実践的指導力習得研修を振り返って　数学科　澤木　瑛保　21

・実践的指導力向上研修を振り返って　理科　黒川　陽介　25

・中堅教諭等資質向上研修を振り返って　保健体育科　宇佐美　大輔　29

《秋田県主催研修》
・Ａ講座　高等学校新任学年主任研修講座　１年部　宮川　皇子　33

・Ｃ講座　家庭や地域の生活を想像する資質・能力」の育成に向けた授業づくり
―高等学校家庭科―　家庭科　小松　久子　35

《 校 内 研 修 》

令和５年度　各教科の重点目標と取組

各教科の取組

教 科	上段：重点目標、下段：取組
国 語	基礎学力の定着を図るとともに、主体的・対話的な学びを通して進路目標に応じた語彙力と表現力を身につけさせる。
	・タブレット端末の利用を促進し、Google Workspace for Education の活　用を通じて生徒の学習に対する興味・関心を高め、語彙力や表現力　を身につけさせる授業を展開する。 ・語彙に関する小テストを実施し、内容の定着を図る。
地 歴 公 民	社会事象に対する興味、関心を高め、主体的に思考・判断･行動ができ、自律して未来を生き抜くことのできる生徒の育成を図る。
	・本時の授業計画の概要を最初に示し、本時の最低限学習して欲しいことを見える化することにより、基礎基本の定着を図る。 ・ＩＣＴを活用した探究活動の実践を多く行い、現代社会の諸問題に関心を深めるとともにその解決策を探る。
数 学	・ユニバーサルデザインの視点も取り入れた授業展開を行い、数学における基本的事項の定着を図り、数学に対する興味関心をもたせる。 ・教師と生徒との対話を重視し、生徒同士が議論する場も醸成し、コミュニケーション能力を育む。
	・理解の遅い生徒に対して、励ましながら根気強く指導する。 ・下位層には個別補習や学習会等を実施して対応する。 ・説明だけの一方的な授業をせず、グループ学習を取り入れる。 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業改善により、数学的な考え方の良さが伝わる指導を心がける。 ・朝学習や小テスト、提出課題によるこまめな指導を行い、定期考査前には問題演習の時間を十分に設け、学習事項の習熟を図る。 ・上位層には、声かけをしてレベルの高い内容の課題を適宜与える。
理 科	創意工夫をこらした授業を展開することで生徒の学習意欲を高め、基礎学力を定着させる。
	・スモールステップのまとめプリントを活用し、生徒同士でつまずきの原因などを学び合う時間を設ける。 ・実習教諭とのＴＴでアクティブラーニング形式の観察実験や野外実習等を多く実施し、ＩＣＴ機器の活用も工夫する。

保 健 体 育	・基礎技能の定着と体力及び技能の向上のための学習内容の工夫をし、生徒に運動する楽しさや喜びと達成感を味わわせる。 ・健康に関する課題発見をし、実生活で自らの健康の保持増進のためにその解決方法を考え実践できる生徒を育てる。
	・新体力テストの目標設定をさせることで意欲向上へと繋げ、保健の内容と関連させることで基礎体力向上を目指す。 ・個人と集団でのそれぞれの課題発見とその克服のための学習内容を考え、実践できる学習シートと手立ての工夫をする。 ・学習意欲と自己肯定感が高めることができる授業内容と学習シートの工夫をする。 ・ＩＣＴを活用した健康や体力に関する知識の定着とその応用ができる場の設定をする。
芸 術	様々な表現活動を通し、主体的に表現する力を身につける。
	・具体的な歌唱法、奏法、創作技法を提示する。 ・生徒個々の課題を明示し、個別指導する。 ・多くの発表の場を提供する。
英 語	・基礎学力定着を目指した授業の工夫、家庭学習の習慣化を目指す。 ・授業に言語活動を多く取り入れ、生徒の発信力を高めていく。
	・１年生の初めは中学校で習う基本事項を復習する。 ・基本的語彙力定着のための単語・構文テストを実施する。 ・パフォーマンステストを実施し、総合的に評価する。 ・プリントの共有化、科内の意思統一、情報交換を積極的に行う。 ・教員と個人的会話の場面を設定し、自分のことを英語で話せる練習をさせる。 ・朝学習・補習・添削指導等の活用、長期休業中の課題を通して検定対策や進学対策を進めていく。
家 庭	家庭生活やそれに関わる産業の基礎となる知識・技術の定着を目指すとともに、他と協力して主体的に家庭生活や地域生活をよりよくしようとする態度を育てる。
	・題材・教材に身近な話題やニュースを取り入れたり、秋田県副読本などを活用したりし、生徒が興味をもてるようにする。 ・学習形態やワークシートを工夫し、他者と考えを共有する機会を設定し、生徒が主体的に考え表現できるよう支援する。 ・ホームプロジェクトや家庭での実践課題を課し、学んだ知識・技術を家庭で活かす機会を設ける。 ・校外実習や外部講師の活用により、多様な方々への理解を深められるようにする。

商 業	基礎的・基本的な知識と技術を身につけさせ、ビジネスに対する望ましい心構えを育成する。
	・学習内容を精選して教材を工夫するとともに、社会の出来事や地域の身近なビジネスにも目を向けさせ、ビジネスの諸活動に興味・関心がもてるようにする。 ・主体的に考えたり発表したりする機会をつくる。 ・課題演習や資格取得をとおして、目標をもって計画的に学習する姿勢を育む。
情 報	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
	・ユニバーサルデザインの視点から到達度を明確にし、授業の流れを明示する。 ・個人の活動からグループの活動へと結び付け、情報の共有や学び合いの機会を増やす。 ・生徒同士がサポートしやすい雰囲気作りをしていく。

芸術科（音楽Ⅰ）学習指導案

実 施 者　　秋田県立雄物川高等学校　教諭　細井大成
実 施 日　　令和５年１２月１９日（火）５校時
実施場所　　秋田県立雄物川高等学校　音楽室
学　　級　　１年Ｂ組１６名（男子１３名　女子３名）

１．題　材　名　　北米・中南米の音楽
２．教 科 書 名　　音楽Ⅰ　Tutti+（教育出版）
３．題材の目標　　北米・中南米の様々な音楽に触れ、それぞれのよさを味わうとともに、社会的背景と音楽との関係を知り、視野を広げる。
４．生徒の実態　　男女ともにまじめで反応がよい。新しい知識を得ることや体験をすることに対して前向きである。

5. 題材の指導計画

	内　　容	時数
1	アメリカ合衆国の音楽（ブルース） （ゴスペル）　［本時］ （ジャズ）	3
2	キューバの音楽（チャチャチャ・マンボ・ソン）	1
3	ブラジルの音楽（ボサノヴァ・サンバ・MPB）	1
4	中南米音楽のまとめ（ｱﾙｾﾞﾝﾁﾝﾀﾝｺﾞ・ﾌｫﾙｸﾛｰﾚ・ﾚｹﾞｴ・ｽﾃｨｰﾙﾊﾟﾝ）	2

6. 題材の評価規準

【知識・技能】 社会的背景と音楽の関連を知り、要点をまとめることができる。
それぞれの曲の特徴や雰囲気に合った歌唱ができる。

【思考・判断・表現】 発声・発音・リズムに気を付けながら、生き生きとした歌唱表現を工夫している。

【主体的に学習に取り組む態度】 様々なジャンルに興味関心をもち、意欲的に表現活動や鑑賞に取り組んでいる。

7. 本時の目標　ゴスペルの歌唱や鑑賞を通し、音楽の特徴や楽しさを味わう。

8. 本時の指導計画

	学習内容	指導上の留意点	具体的な評価規準	評価方法
導入（5分）	「オーハッピーデイ」の鑑賞（CD 音源） ※教科書 P66	曲の進行に合わせて楽譜を見るよう、見方を示す。	興味関心をもち、集中して聴いている。	授業観察
展開（35分）	歌詞の意味及び発音の確認 「オーハッピーデイ」の歌唱練習 まとめの歌唱	 意欲的に歌えるような雰囲気作りをする。 練習の成果が出るよう呼びかける。	 音程・リズムに注意しながら歌唱練習している。 曲想に合った発声で歌唱表現している。	授業観察
まとめ（10分）	「オーハッピーデイ」の鑑賞（DVD「天使にラブソングを２」より）	自分たちの歌唱と比較しながら聴くよう呼びかける。	興味関心をもち、集中して聴いている。	授業観察

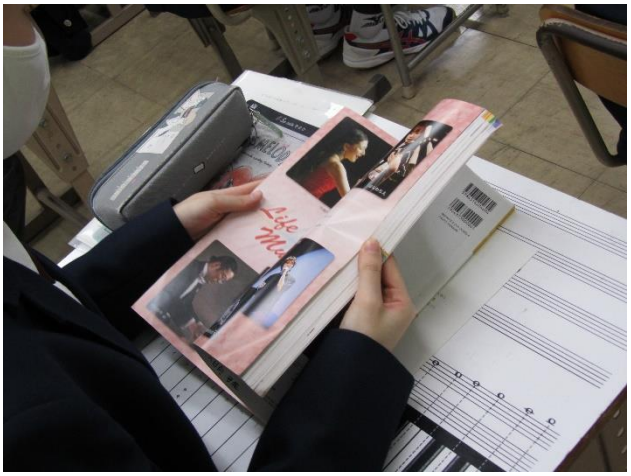
芸術科（音楽Ⅰ）分科会　記録

授業者：細　井　大　成
司　会：糯　田　昭　博
記　録：澤　木　瑛　保

（１） 指導者紹介
秋田県総合教育センター　教科・研究班　指導主事　鈴木　智美　先生

（２）授業者から
細　井：１年生の２学期は「世界一週旅行」と題して世界各地の音楽を取り上げている。本時の題材はゴスペルだった。通常の授業の流れと同様に、授業の最後に振り返りをせず、授業の最初にやってから本時の内容に入った。外国語の発音が分からなかったり楽譜が読めなかったりする生徒がいることを踏まえた支援を行った。音がとれない生徒が多いので、合唱では教師の側から積極的に先導して、声が出る生徒に他の生徒が引っ張られるようにしたものの、もう少し合唱の質を上げたかった。鑑賞は教科書に載っているものを取り上げ、授業の終末に模範的な教材として提示した。理由は、最初にそれを見せてから歌に入ると生徒はだらだらしてしまうが、歌を歌ってから見せることで、集中して取り組めるからである。授業の最後の方はみんなにこにこしていたので、生徒自身が楽しむところまでは達成できたと感じた。

（３）参観者の感想
髙橋(弘)：生徒が終始楽しそうだったところが印象に残っている。バレー部員の割合が多いので、その生徒たちを上手く生かす雰囲気ができあがっていたと思った。本時の授業で歌っていた「オー・ハッピー・デイ」は、映画のために作られた曲ではなく、もともとあった曲だということを初めて知った。細井先生がピアノの周りに生徒を集めて一緒に歌っている姿が映画「天使にラブソングを」に出演していたウーピー・ゴールドバーグのようだった。



髙　階：１６人がいい表情で取り組んでいた。特に運動部員の活動の仕方に着目して参観していた。歌以外にも取り組んでいて、先生の働きかけに生徒が付いていっており、先生と生徒とのコミュニケーションができていた。自分もバレー部を生かす指導をしたいと思った。音程が上がるところや音が短く切れるところを楽譜にチェックできたり、譜読みの最初の方はどこをやっているのかを生徒がお互いに確認できたりすればよいのではないかと感じた。本時で取り上げた曲を１時間で仕上げた先生が凄いなと思った。

宮　川：先生が生徒をダイナミックに引っ張っていって、生徒がのめり込んでいく雰囲気があり、意欲的な活動ができていて一体感もあった。生徒は歌った後の表情がよかったし、最後のＤＶＤの歌と映像を食い入るように見ていて感動的な感じがした。

佐藤(勝)：音楽の授業を初めて見たが、生徒は楽しくやっていて、自分も音楽の授業をやってみたいと思った。最後に鑑賞した映画の合唱のシーンからも歌の力の凄さを感じた。また、生徒が歌ってから映画のシーンを見たのが効果的だと思った。模範の合唱を見てこうなりたいと思ったのではないか。

澤　木：１年Ｂ組の生徒は、全体的に反応がそこまでいいわけではなく、芸術のセンスがそこまであるわけでもない。だが、生徒は歌う前よりも歌った後の方が、明らかに楽しそうな表情をしていた。先生自身が「音楽ってこんなに楽しいんだよ」と伝えようとして引っ張っていったことで、生徒も引き込まれていったのではないかと感じた。

校　長：細井先生の普段の授業を見に行くと、明るく楽しい雰囲気を作るのが上手で、主体的に取り組むように働きかけていて、今日はその成果が出たと思った。発音の仕方に拘ってしまう生徒にとっても、外国語の実際の発音をきちんと指示していて歌いやすかったと思う。また、スモールステップを踏んで仕上げていて良い授業だと思った。「ラスト・クリスマス」などを取り上げ、ＡＬＴの先生にも授業に参加してもらって歌うのもいいと思った。

校　長：１つ目の質問だが、中国語など他の言語でも歌わせることはあるか。

細　井：基本的には外国の歌であっても、その国の言語で歌わせて雰囲気を味わわせている。

校　長：２つ目の質問だが、苦悩を知らない人たちがゴスペルを歌っていて、昔の当事者とそうでない現代の人たちの解釈が違うことについてはどうか。

細　井：生徒には、移民や奴隷の話をして「悲しい歴史の上に、ブルース、ゴスペル、ジャズなどの楽しい音楽を創作してきた」ということを伝えて、そのイメージの材料となる映像も見せる。そのようなことを教材研究で深めるようにしている。生徒が背景を知ることで曲のことを理解してほしいという意図がある。

（４）指導助言

・先生が一番楽しそうだった。たくさん伝えたいことがあった上で、その中の一部を選んで教えていたように感じた。
・細井先生のピアノ伴奏で歌えるのは贅沢である。生徒がピアノに合わせて歌っているように見えるが、実際は先生が歌いやすいように音を入れていて、そのこともあって１時間が成立したと思った。
・導入の部分がスムーズだった。
・生徒が歌うときに、各々が自分の席で歌うよりも、ピアノの周りに集まっていた方が、ゴスペルを演奏するときの並びの配置に近くてよかった。
・「主体的・対話的」と言われるが、生徒が先生に合わせて歌うことも音楽科では対話的と捉えている。ゴスペルを取り扱うのが本時の授業で初めてということであれば、３部合唱は難しいこともあり、曲を味わうことに焦点化されていた授業で良いと思った。
・先生は裏拍や手拍子など、ゴスペルの特徴を取り上げていた。今日は難しかったのだろうが、欲を言えばその特徴を生徒から引き出せればと思った。
・生徒はこの１時間でいろいろな知識や技能を身に付けた。その知識や技能を生かしてどう歌いたいかを考えられるところまでもっていって、もっと深められればと思った。
・授業の終末に振り返りをしていないとのことであったが、歌う前後でどのような変化があったかは気になった。生徒にとってその曲のイメージがどう変化したかが分かればいいと思った。
・音楽で世界を１周するというテーマはいい。学習指導要領によると「音楽の背景や多様性を理解する」、「音楽表現の創意工夫をする」、「幅広く音楽に親しんでいく」の３つが記されている。生徒に授業の感想を聞いてみると「楽しかった」と答えてくれたので、文化に親しんでいたと捉えた。感性については、「なんかいいな」と感じていれば感性を働かせていると判断する。評価とはあまり馴染まないが、音楽科では「感性を高めること」とされているので、そのために魅力的な題材だった。
・年間計画が魅力的だった。「日本の歌と違って外国の歌は１つの音に複数の語が入る」といった気付きを得て、日本の音楽に触れたときに日本の歌のよさを実感できると思った。

（５）質疑応答

糯　田：秋田県の高校において、芸術の選択科目はどれだけの学校で設定されているか。

指導主事：ほとんどの学校で、ある程度は選択できるようになっている。

家庭科（家庭総合）学習指導案

実 施 者　　秋田県立雄物川高等学校　教諭　小松久子
実 施 日　　令和５年１２月１９日（火）５校時
実施場所　　秋田県立雄物川高等学校　２年Ｂ組教室
学　　級　　２年Ｂ組１７名（男子８名　女子９名）
教 科 書　　高等学校家庭総合 持続可能な未来をつくる（第一学習社）

１　単元名　次世代をはぐくむ　～すべての子どもが抱かれ生くるために～
（学習指導要領　内容Ａ　人の一生と家族・家庭及び福祉　(3)子供との関わりと保育･福祉）

２　単元の目標

（１）乳幼児の心身の発達と生活、子供の遊びと文化、親の役割と保育、子育て支援、子供を取り巻く社会環境の変化や課題及び子供の福祉について理解を深めるとともに、子供の発達に応じて適切に関わるための技能を身に付ける。

（２）子供の健やかな発達を支えるために、子供との適切な関わり方について課題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践をお評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。

（３）様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、子供との関わりと保育・福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。

３　生徒と単元

じっくりと課題に取り組む生徒が多く、分からないことでも自分なりの考えをもとうとする姿勢が見られる。積極的に発言する生徒もいるが、発信する力に課題をもつ生徒も少なくない。また、生徒たちが乳幼児と関わる機会が少なくなっているが、保育分野については関心をもって授業に臨む姿が見られる。子どもを取り巻く環境は変化しており、また、課題も山積している。しかし保育に関わる課題は家庭内のこととして捉えられがちであり、それが問題を重大化・複雑化させてしまう場合もあるため、社会全体の課題として自分の生活と結び付けて捉えられるようにする必要がある。授業では、よりよい社会を構築する上で求められる子どもとの関わり方や保育・福祉の在り方を考え、現在・将来の生活での実践に結びつけさせるとともに、生徒自身が子どもを支える社会の一員であることに気付かせたい。

４　単元の評価規準

【Ａ】知識・技能	【Ｂ】思考・判断・表現	【Ｃ】主体的に学習に取り組む態度
・乳幼児期の心身の発達と生活、子供の遊びと文化、親の役割と保育、子育て支援について理解を深め、子供の発達に応じて適切に関わるための技能を身に付けている。 ・子供を取り巻く社会環境の変化や課題及び子供の福祉について理解を深めている。	子供の健やかな発達を支えるために、子供との適切な関わり方について問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、子供との関わりと保育・福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

５　指導と評価の計画　（総時数１２時間　　本時１２／１２時間目）

<table>
<tr><th rowspan="2">時間</th><th rowspan="2">学習活動</th><th colspan="3">評価規準</th></tr>
<tr><th>知識・技能</th><th>思考・判断・表現</th><th>主体的に学習に
取り組む態度</th></tr>
<tr><td>1</td><td>子供が『抱かれ生くる』の意味を考える。</td><td></td><td>①子供の健やかな発達を支えるために、子供との適切な関わり方について問題を見いだして課題を設定している。</td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td rowspan="2">妊娠・出産を支える支援について考える。
＊関連する内容Ａ（２）</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">②子供の健やかな発達を支える支援について、親の妊娠・出産による心身の変化などを踏まえて考えている。</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>3</td></tr>
<tr><td>4</td><td rowspan="2">子供の心身の発達とそれを促す遊びの役割について考える。</td><td rowspan="2">①乳幼児期の心身の発達と生活、子供の遊びと文化について理解しているとともに、子供の発達に応じて適切に関わるための技能を身に付けている。</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">①子供の健やかな発達を支えるために、子供との適切な関わり方について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。</td></tr>
<tr><td>5</td></tr>
<tr><td>6</td><td>子供の事故の原因とその予防策を考える。</td><td></td><td>③子供の健やかな発達を支えるために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について、課題の解決策を構想し、工夫している。</td><td></td></tr>
<tr><td>7</td><td>親の役割と子供との関わり方について考える。</td><td>②親の役割と保育について理解を深めている。</td><td>④子供の健やかな発達を支えるために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について、実践を評価したり、改善したりしている。</td><td></td></tr>
<tr><td>8</td><td>子育て支援について調べ、まとめる。</td><td>③子育て支援について理解している。</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>9</td><td>子供を取り巻く社会環境の変化や課題について調べ、子どもの権利について考える。</td><td>④子供を取り巻く社会環境の変化や課題について理解を深めている。</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>１１</td><td rowspan="2">子供が『抱かれ生くる』ためにできること・必要なことを考え、まとめる。</td><td>⑤子供の福祉について理解を深めている。</td><td></td><td rowspan="2">②子供の健やかな発達を支えるために、子供との適切な関わり方について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しているとともに、自分や家族、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。</td></tr>
<tr><td>１２
（本時）</td><td></td><td>⑤子供を生み育てることの意義や保育の重要性について、実践を評価・改善したり、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している。</td></tr>
</table>

6　本時の計画

（1）本時の目標

これまでの学習を踏まえて、子供を生み育てることの意義や保育の重要性に関する自分の考えをまとめることができる。

（2）学習活動と評価

	学習活動	指導上の留意点	評価方法
導入5分	1　前時の学習活動を確認する。 2　本時の目標を確認する。 **学習課題：子供を生み育てるとはどういうことだろう。**	・前時の学習との関連や、学びのつながりを意識できるよう、グループシートについて確認する。	
展開35分	3　これまでの学習を振り返り、短歌「子は抱かれて生くるもの」とはどういうことかを考え、シートにまとめる。（グループ） 4　グループの考えを発表する。 5　子供を生み育てることの意義や保育の重要性について考え、まとめる。（個）	・これまでの学習内容や、各小単元での意見を踏まえて考察することができるよう、前時までにまとめたjamboardを参考にするよう促す。 ・他のグループの意見を共有することができるよう、jamboardを電子黒板に投影しておく。 ・親以外の手助け・支援の重要性にも気付くことができるよう、必要に応じ、声掛けを行う。 ・考えが出にくい生徒に対しては、具体的な場面を挙げながら助言する。	ワークシート ・思考・判断・表現⑤ ・主体的に学習に取り組む態度② 記録に残す評価
まとめ10分	・単元の最初に記入した自分の考えと、学習後の考えを比較する。 ・学習の振り返りを行う。	・学習前後の自分の変容に気付かせ、学びの深まりを実感させることができるよう、声掛けを行う。	

家庭科（家庭総合）分科会　記録

授業者：小　松　久　子
司　会：永　田　　聡
記　録：佐々木　友里亜

（２） 指導者紹介
秋田県総合教育センター　教科・研究班　主任指導主事　部谷　靖子　先生

（２）授業者から

小　松：保育のまとめの授業を今回やらせてもらった。短歌を題材に使用し、親だけではなく親以外からも支援はあり、ただ子どもをかわいがるだけではなく、様々な方法があるということを気付かせたかった。他にも実生活に反映されたものや、実際に子育てをしている方へのインタビューなど、有効なものがあったかもしれないが、今回はこの題材を使わせてもらった。発達や子育て支援など、それぞれの分野や観点について学ぶ時間を１～２時間ほどとったが、急ぎ足になってしまったため深める時間が少なくなり、まとめに難儀した。まとめる活動を前時に行ったが、ジャムボードや授業プリントを振り返らせながら協議をし、模造紙にまとめさせた。今日は親と社会と周りの人という３つの視点で模造紙にまとめたが、ジャムボード上で色分けをしてから模造紙にまとめるなどすれば、まとめの段階でスムーズに整理できたのではないかと思った。授業内容の順番によってグループ分けをしたが、うまくまとめられないグループもあり、分け方は適切だったのだろうかと思った。付箋を書き写すだけになってしまったグループもあり、そこも課題である。しかし、グループによってはクロームブックで調べたり、前回の学習を振り返ったり、友達同士話をしながら活発に活動している様子も見られた。自分の考えだけでなく、他の人の考えも共有できた点については良かった。

（３）参観者の感想

渡　部：学ぶ点が多い授業だった。題材となった短歌の出典は昔のものだと思うが、昔と今では「子は抱かれ～」の意味（解釈）が違っているのか、また、それを現代風に解釈し直したのかどうかを知りたい。

小　松：「子どもは愛されるもの」という解釈で生徒とも話をしていたが、当時の解釈までは勉強不足だった。

黒　川：机間指導が丁寧に行われていた。ジャムボードを使いながら付箋によって自由に様々な意見が出されていた。これは、生徒の考えや視点が縛られないやり方であり非常に参考になった。また、発表の際にもクロームブックを使用すればまとめたものが残ると思うが、クロームブックを使うのではなく、あえて模造紙を使った理由を知りたい。

小　松：クロームブックを使って発表することもあるが、今回は黒板を見たときにみんなの考えや全ての分野が一目で分かるようにしたかった。電子黒板だと画面が切り替わってしまうため補助的に使った。しかし、模造紙だと訂正が大変なため、その点ではクロームブックが便利である。うまく活用していきたい。

宇佐美：保健と家庭は通じるものがあるため、こういうやり方もあるのかと大変勉強になった。ジャムボードや模造紙の使い方も参考になった。「抱かれ」という意味については、「愛される」だけでなく、「だめなところは叱らなければいけない」という意味も出てきており、生徒たちもよく考えたと思う。今はそういう視点がなかなか出てこない世代になってきているのではないかと思う中、そのような視点で考えられていたため、生徒にとっては将来に繋がる授業になったのではないかと思う。

阿　部：題材になった短歌は教科書に掲載されているものではなく、久子先生が選んだ題材のようだが、具体例を題材として挙げるよりも、短歌や詩のほうが生徒たちは色々考えることができるため良かったと思う。自分の子育てと照らし合わせながら参観したが、生徒たちが言う「親に負担をかけない」というのは祖父母がいる場合であり、核家族の場合はどのように役割分担をしていくのかを聞いてみたいと思った。生徒たちがよく話したりプリントに取り組んだりしており、自分の授業とは違うなと感じた。難しかったと思うのは、子どもの権利の班である。生徒たち自身が理解できていたのだろうかと感じ、もう１、２時間くらいほしかったと思った。自分がどう育ってきたか考えるきっかけになったし、子どもの発達には個人差があり、自他を尊重して認めることにつながるのではないかと感じた。自分も高校生の時に受けたかったと思う授業だった。

佐藤浩：２年生の保健を担当しているが、性の分野と重なる部分もあった。自分の授業の場合は一方的な話で終わってしまうが、この授業は生徒たちが子育てについて考える機会となっており、授業の初めと終わりで気持ちや考えの変化があり、子育ては親だけではないということに気付けたことは非常に良かったと思う。昔のことを思い出しながら見ていたが、昔は悪いことをするとすぐ近所の人に怒られていたが、今はすぐ学校に苦情が来る時代で、今はみんなで教育し、間違いを正すという風潮が薄れている気がする。今回の授業を自分も受けていれば子育てに関する考え方も違っていたのではないかと感じた。

高橋（正）：模造紙を使う発表でよくあるのは、貼りきれなくて教室のサイドに貼るスタイルだと思うが、今回良かったことは、出来上がりを考えて、あの模造紙のサイズにし、全ての班の考えを一つの黒板の中に入れて、比較検討できるようにしたことだと感じた。グループ→全体→個という授業だったが、今回のテーマでは【Ｂ】思

考・判断・表現の評価がグループ発表になり、できる授業が完成されていたと感じた。また、発表のあと個に戻す前に、他の考えがないかを聞いてみる時間をプラスすると、さらに素晴らしい授業になると思う。自分の授業でも時々グループ発表を行うが、まとめるのが大変で、一方的な授業の方が楽なためそのスタイルの授業が多くなってしまうが、子どもたちに考えさせるという点ではグループ学習は大事だと感じた。

教　頭：別の視点からの質問にはなるが、あのクラスには緘黙の生徒がおり、今回は発表に混ざらず座ったままであった。【Ｂ】思考・判断・表現の評価の方法は発表になってくるかと思うが、どういった観点から評価をするか。また、２Ｂで授業を行っている先生が他にもいるため､参考になることがあれば教えていただきたい。

小　松：今日は全員で発表したが、本来は２人以上が発表者ということにしていたため、彼は席に座ったままだった。「表現」の観点でいえば、書いて表現してもらい評価をしている。全員発表の場合は、ただいるだけにはなってしまうが、一緒に前に出てくるよう促している。

佐藤浩：保健では彼に当てないようにしていたが、その日の日付と出席番号が一致したために当ててしまったときはあるが、基本は当てないようにしている。指導方法には自分も悩んでいる。

小　松：文章表現をさせると、きちんと書いているため、私が彼の代わりに発表することもあれば、ペア同士交換して、他の人が彼の分を発表することもある。しかし、最近は書いたものを隠してしまう。書くペースもゆっくりで取りかかるまで時間はかかるが、遅れたとしても提出するものは出してくる。

教　頭：表現というのは必ずしも人前に出て口頭で発表することだけではなく、紙面上で意見を書くことも評価としていることがわかった。また、口頭での発表の仕方は臨機応変に対応されたい。

（４）指導助言

・指導案を事前に拝見させてもらっていたため、授業の流れ等は理解してきたつもりだったが､改めて生徒がいる授業を見て､こういう流れなのかというのが具体的に分かった。
・協議題が「分かる授業・できる授業」及び「思考力、判断力、表現力等の育成を図る授業」だったため、最初はその部分について話をしていきたい。
・単元計画について。各教科で題材または単元という捉え方をしていると思うが、家庭科の場合は高校だけが単元という表現をする。小中学校は題材と言う。現行の学習指導要領で言うと、家庭科ではＡからＤの４つの内容を生徒たちが主体的に向き合えるように単元を複合することになっている。教科によって単元は決まっているものだが、家庭科では先生の裁量で、例えば内容ＡにＢを混ぜるというふうに柔軟に流れを組み立てて工夫する。本授業で扱われる１２時間の単元では、短歌を１時間目に用いて、子どもを産み育てることとはどういうことなのかを思考しながら、学びを深めているかどうかを見取ることができるように組まれている。つまり、この単元計画の中に思考力、判断力、

表現力をどう見取るかが計画として示されている。この点は非常に工夫されている単元であった。

・本時は、書かせる時間や発表が長くとられていた。どういうことかと言うと、今回の単元計画の場合、「思考力、判断力、表現力」のところで「これまでの実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現すること」を評価すると計画されている。そのため、口頭での発表だけでなく紙面上のものでも評価するということである。生徒の実態は様々あるため、発表だけを評価対象にしてしまうと発表できなかった人がいたときに適正な評価が難しい。今回はそれがきちんと計画されていた。

・今回の題材を使用する際に、その時代の解釈を事前に調べておくべきだった。時代ごとにどのような捉え方がされていたのか。例えば、戦時中だとすると子どもは戦力という扱いになり、今のように子どもが養護されるような時代ではなかった。あるいは親にとって必要な財産の１つという捉え方の時代もある。それぞれの時代で捉え方が違うため、この短歌ができた時代に、子どもはどんな捉え方をされていたのか、というところから１時間目をスタートするのも良かったのではないだろうか。現代と比べるとどんなことが問題になるのだろうか。しかし、現代も貧困や児童虐待など問題はたくさんある。では、これからの現代社会で子どもを産み育てる中で、親としてどんなことをやっていかなければいけないのだろうか、といったことを２～１２時間目で学び、最終的に今の世の中で「子どもが抱かれ」とはどういうことなのかを考えることができれば良いのでは、と感じた。この短歌を効果的に使うにはそういうやり方もある。

・グループ分けについて。小単元の２～９時間目のグループで分けられているが、それぞれの小単元で評価が済んでいるのであれば、その内容を再度まとめさせて最後に再び評価するのは、二重になるのではないかと感じた。１１時間目と１２時間目は自分たちが学んだことを踏まえて深められなかった部分を深め、まとめさせるのも良かったのではないだろうか。違う視点で見ると色んな考えが出てきたかもしれない。学んだことを踏まえて自分たちで選択できるグループ編成にするのもありだったと思う。

・高校家庭科における内容Ａの最大の特徴は、親の視点である。他教科と違うのは、小中高で扱う内容は同じだが、見る視点が違うという点。同じ子どもでも、小学校はまず子どもと関わってみようという視点、中学校は地域の人と関わろうという視点、高校は親の視点。これら小中高の視点を踏まえてきちんと分けていたため、非常に勉強されていると感じた。

・授業の最後のまとめで、最初と最後の気付きの変化を見る際に、「親の視点」というところを先生が言ってしまったため、そうではなく、生徒に発言を促せると良かったと感じた。

・最後に、先日のホームプロジェクトの発表の際に、雄物川高校の生徒だけが原稿を見ずに顔を上げて発表していたのが非常に立派で、普段の指導の表れではないかと感じた。

（５）質疑応答

特になし

令和５年度 校内相互授業参観研修について

令和５年８月２４日

研修部

１　研修テーマ

「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた、生徒の発言や考えをつなぐ発問の工夫」

２　目　　的　　教員が教科を越えて相互に授業を参観し、感想や意見を交換することにより、各自の授業改善の手立てを考える機会とし、生徒の学力向上に活かす。

３　期　　日　　令和５年９月１１日（月）～１５日（金）

４　方　　法

（１）上記の期間内に複数教科の授業を**最低２回以上**参観する。

（２）参観する授業については各自で授業者に交渉する。

（参観授業の事前調査はしません。）

（３）時間がない場合、導入･展開･まとめのいずれかの参観でも可とする。

（４）参観者は、感想や参考になった点等を「参観シート」に記入し、授業者へ School Ware のメッセージ機能を利用し添付ファイルとして送信する。ファイルについては研修部の下記のフォルダに保存する。ファイル名は「(職員番号)R5 参観シート(参観者氏名)①or②」とし、22 日（金）までに保存をお願いします。

（例）(11)R5 参観シート(永田聡)①　（→永田の①時間目の参観シート）

５　そ　の　他

（１）【「参観シート保存先】¥令和５年度　¥研修部　¥Ｒ５　相互授業参観¥授業参観シート保存用

（２）次項に「参観シート」を掲載しました。

【授業参観シート～授業改善に生かすために～】

秋田県立雄物川高等学校

9月　　日	科目名		授業者名	先生
年　　組	単元名		参観者名	

資質･能力	評価項目（観点）当てはまる項目の番号に〇を記入してください。
知識・技能	◆ 知識や技能を用いる場面の設定
	① 小テストや学習プリントで知識の定着を図っている。
	② 自己・相互評価を行い学習内容の定着を確認させている。
	【感想等】
思考力・判断力・表現力	◆ 対話によって考えを広げ、深める活動
	③ 自分の考えをまとめさせている。（内部対話）
	④ 自分の考えを分かりやすく説明させている。（外部対話）
	⑤ 自分の考えと他者の考えとを比較し、思考を深めさせている。
	⑥ 学習内容を活用して新たな問いを考えさせている。
	⑦ ＩＣＴを活用して考えを共有・広げさせている。
	【感想等】
学びに向かう力・人間性	◆ 主体的に学びに向かう姿勢の育成
	⑧ 本時の学習の手助けとなる前時の振り返りを行っている。
	⑨ 本時の目標や流れを提示し、課題解決の見通しをもたせている。
	⑩ 主体的に学びに向かわせるような協働的学習の場を設定している。
	【感想等】

令和５年度 校内相互授業参観研修　参観者感想集

【知識・技能】◆ 知識や技能を用いる場面の設定

地歴公民：「人数が少ないので、（個々の定着度を測るためにも）１人１人順番に当ててもよいかと思います。ふりがな、解説をメモさせてもよいかと思います。」

理　　科：「小テストチェック後、必要に応じて個別に指導しているのが良かったです。」「演習の時間（生徒の活動時間）をもっと多くすればよいと思います。」

商　　業：「答えを見てプリントに写す生徒は少なく、問題演習は事前に生徒が考え、間違っていてもプリントに解答を記入して、答え合わせをしていた。」

【思考力・判断力・表現力】◆ 対話によって考えを広げ、深める活動

国　　語：「本時はちょうど新しい教材に入る部分だったかと思いますが、生徒の興味・関心を引き出し、本文を意欲的に読ませるための発問がなされていたと思います。問題意識を持たせてから本文を読ませる導入がされていました。」

地歴公民：「資料集を見ずに、しっかり自分たちで考えさせていて、素晴らしかった。生徒も自分で理由を考えていた。」「電子黒板を活用して、テンポ良く授業が展開されていると思いました。生徒たちの反応も良かったと思います。」「付箋を貼って予想する時間に、生徒が既習事項を思い出しながら主体的に活動していたと思います。Jamboad を利用すれば、付箋の作業が楽になるのかと思いました。」「歴史的に正しい文章をつくる課題で、各グループから出てきた考えから、既習事項を生徒に想起させながら、正しい文章を考えるよう促していた。」

数　　学：「電子黒板を活用して、学習内容の復習やまとめができるようになっていました。黒板と併用して工夫されていると思いました。」間違えた生徒には挽回の機会を与えるなど、生徒が自分の考えを発表しやすい雰囲気作りをしていた。」「テンポ良い授業で、生徒を飽きさせず、気を抜かせない声掛けをしていて皆集中していたと思います。生徒自身に説明させる時間を沢山取る授業があれば、より自分の理解度の把握にも繋がるのではないかなと思いました。」「発問して出てきた答えに対して、すぐに正解を教えるのではなく、生徒が知っている既習事項を振り返らせて、他の生徒にも考えさせたり、本当に正しいかどうか揺さぶったりするのが参考になった。」

理　　科：「組成式の書き方・読み方を丁寧・ゆっくりと教えていて、生徒が理解しやすかったと思います。」「生徒間で考えを共有する前にノートに自分の考えをまとめさせている。」「全員の生徒に発言させて、確認する時間があればよいと思いました。」

保　　体：「クロムブックを活用し、知識や思考を広げている。パワーポイントとホワイトボードを組み合わせた使い方。」「自分の考えをまとめる時間と発表の時間を設

けることで、思考を深める場面の工夫がされていた。」

外 国 語 :「相互評価…小テストの答案を交換し、採点をさせている。」「英文や単語を細かく分けたり、例え話をしながら発問し答えを導き出している。授業のリズムが良い。(説明、発問、板書)」「各自が考え、生徒間で話し合い、他者に向けて発表し、ネイティブスピーカーとコミュニケーションを取るという、生徒の活動が様々に設定された優れたフォーマットの授業だと思いました。」

家　　庭:「タブレットを活用して､テーマに沿ったコーディネートを考えさせていました。商業でもビジネスマナーで服装などがあるので、興味深いテーマでした。」

商　　業 :「答えだけを確認するのではなく、計算方法について手順等を自分でわかりやすくまとめていた。」「電子黒板と黒板を有効活用できている。大切なポイントがどこであるかを瞬時に理解することができる。」「電子黒板と黒板を有効活用できている。動画を使うことで、生徒に視覚的に訴え、理解させようという様子が見られた。」

【学びに向かう力・人間性】◆ 主体的に学びに向かう姿勢の育成

国　　語 :「前時の内容をうまく盛り込みながら、授業が展開されていた。」

地歴公民 :「生徒がためらわずに発言できる雰囲気があり、先生と生徒とがキャチボールをしながら授業が進んでいると感じました。」「既習事項の確認や前時の振り返りが丁寧に行われていた。生徒に対して問いかける場面が多くあり、安心して学べる雰囲気だった。」「各グループ対抗のゲーム形式で課題に取り組ませていて、生徒は活発に活動していた。」

数　　学 :「問題を解かせる時間には、生徒同士で教え合う場面があり良かったと思いました。板書等の色、□や○などの使い分けがわかりやすいと思いました。」「前時の内容を盛り込みながら、授業が展開されていた。」「黒板の色の使い方がわかりやすかったです。」

理　　科 :「比率の考え方など、生徒が苦手であろう内容を丁寧に説明していて素晴らしかった。話すのが苦手な生徒もおり、板書で答えさせる配慮がとても良かったです。」「分子模型を用いて、基礎の授業でありながら、発展化学の内容にも触れていて大変参考になりました。」

保　　体 :「視覚に訴えかけ、意欲を喚起している。」「はじめに自分の就きたい職業から考えさせることで、関心をもたせる工夫をしていた。」

外 国 語 :「授業の最後に指摘されたように、新たなテーマで質問内容を考える課題等、主体的かつ協働的な学びが展開される余地を感じさせてもらいました。」

家　　庭 :「一斉に同じテーマではなく、個々に割り振られたテーマで考えをまとめさせ、発表するという流れが大変良いと思いました。」

《 経 験 年 次 別 研 修 》

実践的指導力習得研修（１年目）を振り返って

数学科　教諭　澤木　瑛保

１．校外研修について

（１）研修内容

期	実施日	研　修　内　容	場所
Ⅰ	5／18 （木）	○保護者対応と連携（講義・演習） ○学校組織の一員として ～学校教育目標とホームルーム経営～（講義・演習） ○学校教育目標に基づいた学習指導①（講義・演習）	秋田県総合教育センター
Ⅱ	8／23 （水）	○学校教育目標に基づいた学習指導②（演習・協議）	

（２）校外研修を通して

「学校教育目標に基づいて２年経験の教諭としてどう教育活動に携わっていくか」という観点から、学級経営や学習指導についての理論と実践方法について考えを深めた。

① 保護者対応および学校経営についての内容

Ⅰ期の「保護者対応と連携」では、「保護者への情報提供の大切さ」、「保護者からのクレームに対応する際の、傾聴、事実確認、合意形成」、「先生方との連携」の重要性について学んだ。「学校教育目標とホームルーム経営」では、現任校での内部要因と外部要因をもとに、教育目標を達成するために、どう強みを生かし弱みを改善するかを整理し、２年目の教諭としてどう学校の活性化に向けて取り組んでいくかについて、２年経験者との意見交換を通して考えを見つめ直すことができた。

② 学習指導についての内容

Ⅰ期では、「学校教育目標に基づいた授業実践」というテーマで指導主事からのご助言をもとに授業の構想を練り、指導案を作成して勤務校で授業を実践し録画をした。Ⅱ期では、２年経験者同士でお互いの授業について動画を見せながら紹介し合い、それぞれの授業について各教科の視点でよかった点と改善すべき点を、KJ 法を用いて協議した。

〈授業実践および助言〉

本校の教育目標である「創造性と豊かな人間性を養う」ために、「ハノイの塔」を題材として身近な事象を数量の関係で表現する活動を実施し、グループや全体で他者と

説明し合う過程で考えを深められるような手立てを行った。その結果、生徒同士が活発に意見を交わしながら、観察結果を吟味し合ったり数学的な法則を見いだしたりしていたことが成果であった。指導主事からは、「多くの数学科の先生方が実践方法を検討している題材の授業によく挑戦しました。」という感想をいただいた。２年経験者からは、「授業を通して何ができるようになるべきかを生徒と共有し、本時の流れを可視化すると、生徒が活動の見通しを持ちやすくなる。」、「思考過程をまとめる活動があると、生徒が学んだことを整理しやすくなる。」という意見をいただいた。

〈他授業者の授業実践および協議〉

理科の授業では、『「主体的・対話的で深い学び」の実現』に向けて、導入で生徒に本時の見通しをもたせた上で、内容理解や問題解決の大部分を生徒の情報収集や生徒同士の説明し合う活動に委ねていた。情報科の授業では、『個別最適な学びの実現』に向けて、生徒が各々１台のパソコンの画面を見ながら作業ができるようにしたり、内容を音声で説明してくれる AI を導入したりしていた。どちらの授業も授業の基本は押さえつつ、目標達成に向けて工夫が凝らされていることが印象深かった。

協議では、各教科の視点から意見を出し合ったことで、どの教科の授業でも共通して留意すべき点があることに気付くとともに、異なる視点からの意見をもとに自分の授業を多面的に見つめ直すことができた。また、生徒に達成させたい目標、指導内容、生徒の実態を踏まえつつも、今までのやり方に固執せずに、日々新たな取り組みに挑戦していく姿勢の大切さを再認識した。

２．校内研修について

今年度は初めて学級担任をやり、多様な実態をもつ生徒と関わる中で、日々様々な経験を積んだ。その中で、「学級経営の進め方」、「特別な支援が必要な生徒への対応」、「保護者との連携」などを、研修という形で先生方からご指導やご助言をいただきながら進め、実践と振り返りの往還を通してスキルを学び取ることができた。また、授業参観を通して生徒一人一人が資質能力を身に付けるための効果的な手立てを整理し、自分の授業にどう生かせるかを模索した。

３．研修を終えて

本研修を通して、理論をベースに勤務校の実態に即した学習指導や学級経営の在り方や進め方について考えを深めるとともに、日々の実践を振り返ることで実践力を身に付けることができた。これを生かし、場面や状況に合わせた対応を心掛け、与えられた役割は責任をもってこなした上で、一人で解決できない場合は周囲との連携することを大切にしたい。今年度までで教員の主な職務内容は把握したが、より質を高めるためには、まだまだ経験すべきことや身に付けるべき知識やスキルがたくさんある。今後とも、分からないことを先生方からご指導いただきながら学び続けていきたい。

数学科（数学B）学習指導案

秋田県立雄物川高等学校数学科

期　　日：令和５年７月１４日（金）　２校時
クラス・場所：２年Ｂ組（進学コース）・２年Ｂ組教室
生　徒　数：６名
授　業　者：澤木　瑛保
使用教科書：『新編　数学Ｂ』（数研出版）

１　単元名　数列

２　単元の学習目標

① 数列における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解するとともに，事象を数学的に表現・処理する技能を身につける。（知識・技能）
② 事象の離散的な変化の規則性に着目し，数列を用いて考察し表現したり，解決の過程を振り返って考察したりすることができる。（思考力・判断力・表現力）
③ 数列の考えを日常や社会生活の事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断したり，解決の過程を振り返って考察を深めたりしようとする。（主体的に学びに向かう態度）

３　本校の「教育目標」及び「本年度の重点目標」

○雄物川高校「教育目標」

豊かな人間性や創造性等，調和のとれた社会人としての資質・能力を養い，社会の進展に貢献する有為な人材の育成を図る。

○雄物川高校「令和５年度の重点目標」

元気な郷土づくりを支える人材の育成～生徒に勇気と自信をもたせ，夢を叶える～

４　単元計画（漸化式）

時限	主な学習内容	主な学習活動
1	数列と漸化式の項	漸化式の特徴を理解し、漸化式で表された数列について小さい項から順番に求める。「ハノイの塔」に取り組む。
2	事象と漸化式	身近な事象の変化を漸化式で表現する。 ※「ハノイの塔」を題材とする。
3	$a_{n+1}=a_n+d$，$a_{n+1}=ra_n$ で定められる数列の一般項	$a_{n+1}=a_n+d$ が等差数列，$a_{n+1}=ra_n$ が等比数列であることに着目し，一般項を求める。
4	漸化式 $a_{n+1}=a_n+$（ｎの式）で定められる数列の一般項	$a_{n+1}=a_n+$（ｎの式）の（ｎの式）が階差数列であることに着目し，一般項を求める。
5	漸化式 $a_{n+1}=pa_n+q$ で定められる数列の一般項	$a_{n+1}=pa_n+q$ が $a_{n+1}-c=p(a_n-c)$ と変形できることに着目し，一般項を求める。

５　協議の視点

創造性の基礎を養うために，具体的な事象から再帰的な関係を見いだし，それを式で表す活動を設けた。その際に，「実際にゲームに取り組ませてその手順を整理させる」，「一つ一つの手順の中から関係を見つけさせる」という「授業展開」は妥当であったか。また，豊かな人間性の育成に向けて，数学が苦手または人との関わりが苦手な生徒もいる中で，「他者とお互いの考えを出し合って議論しながら問題解決に取り組み説明する活動」を設けた。その際に，「一人一人が問題解決の見通しを立てたり，解決に向けて必要な考え方を見いだしたりする」ために，「教師側の支援」は適切であったか。

６　本時計画

（１）本時のねらい

事象の再帰的な関係に着目し，その関係を漸化式で表現することができる。【思考力・判断力・表現力】

（２）本時の展開（２/５）

過程	学習活動 ・予想される生徒の反応	形態	教師の支援◇ ねらいを達成した子どもの姿○【評価の観点】（方法）
導入 ５分	１　学習問題を把握する。 **問題**　ハノイの塔で１０枚の円盤を全て移動させるためには，最短で円盤を何回動かせばよいだろうか。	全体	◇本時の課題への目的意識をもつことができるように，前時の学習を振り返り，漸化式を活用すればｎが大きい場合の a_n を求めやすくなることを気付くように促す。 ◇円盤の枚数をｎ，最短の手順を a_n と定める。
	ハノイの塔を完成させる最短の操作回数 a_n の漸化式をつくるにはどうしたらよいだろう。		
展開 １５分	２　a_2，a_3，a_4 を求める。 **問題１**　円盤の枚数が２枚，３枚，４枚のとき，最短で何回円盤を動かせばよいか。また，そのときの手順はどのようになるか。 ・円盤が２枚のときは３回 $a_2=3$ ・円盤が３枚のときは７回 $a_3=7$ ・円盤が４枚のときは１５回 $a_4=15$	個 ↓ グループ⇅全体	◇正しい手順を見いだして整理できるように，ハノイの塔に取り組みながら，そこから出た考えを共有しつつ解き進めるよう促す。協働的な学び ◇グループでの活動状況に応じて，最短の手順になっているかを確認するよう指示したり，全体の手順の中にどんな規則性があるかを気付くための視点を与えたりする。個別最適な学び ◇全体で解決方法と結果を共有できるように，代表生徒が説明し全体で検討する機会を設ける。
１５分	３　a_2 を用いて a_3 を表す。 **問題２**　３枚の円盤を使った場合の円盤を移動させる７回の手順の中で，２枚の円盤を別の棒に動かしているのはどこからどこまでか。 ・円盤が３枚の時の７回の中で，２枚の円盤を別の棒に動かしているのは，１～３回までと５～７回までであるから，$a_3=2a_2+1$ となる。	グループ⇅全体	◇３枚の場合の手順から，２枚の場合の手順を見いだす方針を見通すことができるように，各手順の図を掲示して問題場面を共有する。 ◇生徒のつまずきに応じて，問題文や図を確認するよう指示したり，生徒の出した考えが正しいか判断する視点を与えたりする。個別最適な学び ◇生徒一人一人が解決過程と結果を見いだすことができるように，グループや全体で解決過程を説明し合い，共有して考えるよう促す。協働的な学び
５分	４　a_n を用いて a_{n+1} を表す。 ・$a_3=2a_2+1$ だから，$a_{n+1}=2a_n+1$ と予想できる。	全体	◇一般化を意識付けるために，円盤が２枚と３枚のときの手順の関係から，ｎとｎ＋１の場合でも同様の規則が成り立つことに気付くように促す。 ◇生徒一人一人が解決過程と結果を見いだすことができるように，適宜ヒントを与えつつ大事なところを考える機会を設ける。
終末 ５分	・左端のｎ＋１枚の円盤を真ん中に動かす手順は a_n 通り，左端の一番下の円盤を右端に動かす手順は１通り，真ん中のｎ＋１枚の円盤を右端に動かす手順は a_n 通りとなる。 ５　本時のまとめをして振り返る。 ｎ＋１番目までの操作の手順からｎ番目までのものと同じ操作を見つける。	全体	◇生徒一人一人が内容を整理することができるように，問題を見いだして解く過程を俯瞰しながら振り返る。 ○　事象の再帰的な関係に着目し，その関係を漸化式で表現することができる。【思考力・判断力・表現力】（学習プリント，生徒の行動，発表） ◇次時は，漸化式で表現された数列の一般項を求めていくことを伝える。

実践的指導力向上研修を振り返って

理科：教諭　黒川　陽介

１　研修の概要

（１）研修名　Ａ－１７　実践的指導力向上研修講座（高等学校８年目）

（２）日　時　Ⅰ期　令和５年６月２３日（金）

　　Ⅱ期　令和５年８月８日（火）

（３）場　所　秋田県総合教育センター

（４）日　程

Ⅰ期　令和５年６月２３日（金）

１０：００～１０：１５　＜開講行事・オリエンテーション＞　挨拶

１０：１５～１１：５５　＜講義・演習＞　不登校の未然防止と対応

１２：５５～１３：０５　＜説明＞　社会に開かれた教育課程の実現に向けて

１３：１０～１４：１０　＜講義・演習＞

　　学校組織の一員として－自己理解に基づく目標設定－

１４：２０～１６：０５　＜講義・演習＞　カリキュラム・マネジメント

１６：０５～１６：１５　＜研修の振り返り＞

Ⅱ期　令和５年８月８日（火）

１０：００～１０：０５　＜オリエンテーション＞　日程説明等

１０：０５～１２：１０　＜協議・演習＞

　　カリキュラム・マネジメントを軸にした授業改善

１３：１０～１５：２０　＜協議・演習＞

　　カリキュラム・マネジメントを軸にした授業改善

１５：２５～１６：０５　＜協議・演習＞

　　カリキュラム・マネジメントを軸にした授業改善

１６：０５～１６：１５　＜研修の振り返り＞

２　研修内容

（１）Ⅰ期　令和５年６月２３日（金）

不登校の未然防止と対応では、①不登校の現状と支援の方向性、②未然防止、③初期対応、④不登校児童生徒への支援という内容での講義であった。未然防止の観点から児童生徒にとって学校が安全・安心な居場所となるための「魅力ある学校づくり」と「分かりやすい授業」の重要性について確認した。その過程の中で学校の体制や教員の雰囲気づくり、

児童生徒一人一人の状況を把握した上での個に応じた指導が大切であると感じた。また、不登校生とへの支援として､今後はＩＣＴが重要なツールとなり得るということであった。ＩＣＴを活用するメリット､デメリットを十分に理解した上で効果的に活用していきたい。

学校組織の一員としてー自己理解に基づく目標設定ーでは、教員自身の強みと弱みを理解し、その理解に基づいて学校組織の中で果たす役割と教員自身の成長への努力についての講義・演習であった。

カリキュラム・マネジメントについての講義では、教育課程に基づく教育活動の質を向上させ、学習効果の最大化を図る上でのカリキュラム・マネジメントの重要性について学んだ。カリキュラム・マネジメントの実現に向けては、教科横断的な視点で教育内容を組織的に配列していくこと、子どもや地域の現状に合わせること、教育内容と人的・物的資源等を効果的に組み合わせることがポイントとなる｡さらに実施していく中で必ず評価し、改善していくことが求められるのでＰＤＣＡサイクルの確立も重要である。勤務校の現状や特色を把握し、教育目標を理解した上で今後の授業実践、授業改善に結びつけていきたい。

（２）Ⅱ期　令和５年８月８日（火）

カリキュラム・マネジメントを軸にした授業改善ということで、３～４名のグループになり、授業ＤＶＤの視聴、協議を行った。他教科の先生方との研修であったため、授業の手法や教科の特性による授業の展開など刺激を受けた。自身の授業に取り入れられるものは取り入れて授業改善に繋げていきたい。また、自分自身の授業の提示、協議では、多くの参考となるご意見をいただいた。特にグループワークやその際の働きかけについてのご助言から今後の授業でのヒントをいただいたので活かしていきたい。

研修を通して、各校の生徒の実態や教育目標を踏まえ、育てたい生徒の能力、姿を意識することでより効果的に授業を行うことができることを学ぶことができた。

３　実践的指導力向上研修講座（高等学校８年目）を終えて

教職８年目を迎え、今回の研修は今後の自分自身の役割、立場を再確認すると同時に自身の資質能力の向上のヒントとなった。研修を終えて、今後は学校組織の一員として、より良い学校づくりのために学校全体の運営に目を向けられるようにしていきたいと考える。そのためには勤務校の現状、教育目標、生徒の実態等をしっかりと理解した上で学年経営や校務分掌に今まで以上に積極的に関わり､役割を果たしていくことが必要である｡また、授業についても単なる教科の指導として終えるのではなく、授業を通して生徒がより成長できるように工夫していくことが求められると感じた。

以上のように、より良い学校づくりに関わっていくためにも自身の資質能力について正しく分析し、強みを活かし、弱みを補えるように研鑽を積みたい。また、自身の資質能力を生徒の成長、学校運営に還元できるようにしたいと考える。

第２学年Ｂ組　理科（化学基礎）学習指導案

授業日時　７月１３日（木）
６校時

指 導 者　黒川　陽介
教 科 書　i版　化学基礎(啓林館)

１　単元名　第３章　化学結合
　　１２　イオン結合
　　B　イオンからなる物質の表し方

２　単元（題材）の目標

(1) 物質と化学結合についての観察、実験などを通して、イオンとイオン結合、分子と共有結合、金属と金属結合について理解するとともにそれらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。
(2) 物質や化学結合について、観察、実験などを通して探究し、物質と化学結合における規則性や関係性を見いだして表現する。
(3) 物質と化学結合に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

３　単元（題材）の評価規準

A　知識・技能	B　思考・判断・表現	C　主体的に学習に取り組む態度
物質と化学結合について、イオンとイオン結合、分子と共有結合、金属と金属結合の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	物質と化学結合について、観察、実験などを通して探究し、物質と化学結合における規則性や関係性を見いだして表現している。	物質と化学結合に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

４　本時の計画

(1)　ねらい

グループやペアでの学びあいを通して、イオンからなる物質の組成式とその名称を、イオン式を基に書くことができる（知識・技能）

(2)　展　開

	学習活動	指導上の留意点	評　　価
導入	前回の復習をする。 本時の目標を確認する。	・スライドを用いて、既習事項を確認させる。 ・本時の目標を把握できるように、本時の流れを含めて丁寧に説明する。	
展開	グループに分かれ、それぞれの課題に取り組む。 異なるグループの人とペアになり、それぞれの課題で理解したことを説明しあう。 ２つの課題を踏まえ、確認問題に取り組む。 クラス全体で解答を確認する。	・それぞれのグループに別々の課題（課題１、課題２）を指示する。 課題１陽イオンと陰イオンの結びつく比率を理解する。 課題２組成式とその名称の書き方を理解する。 ・グループワークの補助となるプリントを配付する。机間巡視により、苦戦している生徒には助言を行う。 ・もう一方のグループの人とペアになるように指示する。ペアワークをさせることにより、両方の課題を理解させる。 ・プリントを配付し、確認問題に取り組ませる。 ・確認問題の解答を全体で共有させる。	イオン式をもとに、組成式、名称を書くことができる。 （B　プリント）
まとめ	本時の振り返りを記入する。	本時を振り返り、理解したことや反省などを記入させる。	

５　協議の視点

「教育目標や生徒の実態を踏まえたグループワークやペアワーク」

中堅教諭等資質向上研修講座を振り返って

保健体育科：教諭　　宇佐美　大輔

１　研修の概要

（１）研修名　Ａ－２２　中堅教諭等資質向上研修講座（高等学校）

（２）日　時　Ⅰ期　令和5年 6月27日（水）
　　Ⅱ期　令和5年 8月 2日（水）
　　選択研修　令和5年 7月26日（水）～28日（金）
　　Ⅲ期　令和5年 8月24日（木）
　　Ⅳ期　令和5年10月12日（木）
　　Ⅴ期　令和6年 1月 9日（火）

（３）場　所　秋田県総合教育センター・ＴＡＫＡフィジカルステーション

（４）日　程

Ⅰ期　【開講式】 中堅教諭等への期待（全校種合同）
　　○質の高い授業研究を継続的に進めていくための方略
　　（講義：全校種合同） 秋田大学大学院 教授 成田 雅樹
　　○学校の危機管理（講義・演習：全校種合同）
　　○学校組織の一員として①－リーダーシップ－ （講義・演習）

Ⅱ期　　○高い専門性に基づく教科指導の充実と推進（講義・協議・演習）

選択研修　７月２６日（水）　８：３０～　９：３０　清掃・準備
　　９：３０～１１：３０　ＤＳトレーニング
　　１１：３０～１２：００　後片付け
　　１２：００～１３：００　休憩
　　１３：００～１５：００　ＤＳトレーニング
　　１５：００～１６：３０　トレーニング器具清掃
　　１６：３０～１７：３０　リトルスポーツクラブ
　　（ボルダリング）

７月２７日（木）　８：３０～　９：３０　清掃・準備
　　９：３０～１１：３０　ＤＳトレーニング
　　１１：３０～１２：００　後片付け
　　１２：００～１４：００　休憩（ミーティング）
　　１４：００～１６：３０　治療見学
　　１６：３０～１７：３０　トレーニングマシン修理
　　１７：３０～１８：３０　リトルスポーツクラブ
　　（サッカー）

７月２８日（金）　８：３０～　９：３０　清掃・準備
　　９：３０～１１：３０　ＤＳトレーニング
　　１１：３０～１２：００　後片付け
　　１２：００～１３：００　休憩
　　１３：００～１４：００　接客対応
　　１４：００～１５：００　ＤＳトレーニング
　　１５：００～１６：１５　トレーニング実習
　　１６：１５～１７：１５　リトルスポーツクラブ
　　（ボルダリング）

Ⅲ期　　○いじめの理解と対応（講義・演習：Ａ－24 と合同）
○気になる生徒の事例を通した具体的対応の理解　（講義・協議：Ａ－24 と合同）

Ⅳ期　　○教育活動全体を通じたキャリア教育（講義・協議）
○学校全体で取り組む情報教育（講義・演習）
○人間としての在り方生き方を考える道徳教育　（講義・協議・演習）

Ⅴ期　　○教育公務員の服務（講義・演習：Ａ－24 と合同）
○学校組織の一員として②－キャリアデザイン－　（演習・発表：Ａ－24 と合同）
○これからの学校教育（講話：全校種合同）

【閉講式】　中堅教諭等資質向上研修を終えるに当たって　（全校種合同）

２　選択研修の成果

今回、選択研修を実施させていただいたＴＡＫＡフィジカルステーションは、「はり・鍼灸・マッサージ」をメインとした地域の治療院です。また、治療と並行して、いつでも誰でも気軽に利用できる会員制トレーニングジムとしての付加価値を高めたり、近年では介護認定を受けている方々でも利用していただけるように介護施設や個人宅への訪問治療を手がけたりと、新たな取り組みにもチャレンジしているということでした。

社員スタッフの皆さんは通常①８：３０～１７：３０の勤務時間の他、②１０：００～１９：００と③１３：００～２１：３０の勤務時間をベースとして働いていました。トレーニングジムの利用時間が平日１０：００～２１：３０、土日祝１０：００～１８：００であるため、不規則な勤務時間でシフトを組んで対応しているとのことでした。

初日は、施設内の清掃作業とＤＳトレーニングの準備からお手伝いし、実際にＤＳトレーニングに取り組んでいるところに参加させていただきました。「ＤＳ」とはデイサービスのことを意味しているがデイサービスと言われることをあまり良く思わない方もいらっしゃるということで、ＤＳトレーニングと呼んでいるそうです。ＤＳトレーニングには３日間一緒に活動させていただいた中で、様々な方々がいましたが皆さん７０歳を超えていながら健康を意識して継続的にトレーニングしているということでした。個別にトレーニングメニューが計画されていて、無理のないように配慮がなされていました。

また、日常的な会話でコミュニケーションを図り、その一方でやる気を持たせるような声かけを適切にかけることで、意欲を引き出している工夫がなされていると感じました。

２日目の昼休みは通常より長くスタッフ全員でミーティングをしながらの昼休みで、直接参加することはできませんでしたが、情報の共有や今後の方針や戦略など、多岐にわたって話し合いができる場が設定されていて職場でのコミュニケーションを図る工夫をしていました。夕方からは、サッカーのブラウブリッツジュニアの練習にリトルスポーツクラブの生徒が参加するのに同行しました。私自身他競技のジュニアを見ることがあまりないので大変勉強になり、持ち帰って子供たちへの指導の参考にしようと感じました。

３日目もＤＳトレーニングから始まり、２日目よりも周りを見ることができ、スムーズの進められるようにサポートできた。また、ボルダリングを実際に体験させていただくことができ、今までの見ていたイメージよりも負荷が大きく、大変なスポーツであることが分かり、ゴールまで完登した時の達成感を味わうこともできました。３日間を通じて、パーソナルトレーニングを拝見させていただきましたが、利用者一人ひとりにトレーニング

の実施方法とその効果を説明しながら、週に１～２回のペースで計画的に進められていました。その指導を受けて、ゆくゆくは自分自身で自立して継続して取り組んでいけるようになるのだと感じました。最後に、リトルスポーツクラブに、一緒に参加することができました。小学校１～３年生を対象に、運動することの喜びや楽しさを体感させられるような様々な取り組みがなされ、子どもたちと目線を同じ高さにして関わっているスタッフの姿を拝見し、大事なことを学ぶことができました。

今回の研修で体験したことは、今後の教科指導や進路指導、クラス経営に生かすことが十分に出来ると感じられる内容でした。人との関わりの中でなにより大事なことは、その人のことを第一に考えていること、その人に合わせた目線で接することであり、様々な取り組みの中で五感をフルに活用して感じることができ、実りの多い研修でした。業務多忙の中、ご指導頂いたＴＡＫＡフィジカルステーションのスタッフの方々に深く感謝したいと思います。

３　中堅教諭等資質向上研修講座を終えて

中堅教諭等資質向上研修の様々な講座を受講して、特に印象深く考えさせられた内容は、学校組織の一員としてのリーダーシップについてである。中堅教諭は学校の中核になっていかなければならない立場であり、そのことを考えた時、今の自分にそれが務まるのだろうかというのが正直な気持ちである。リーダーシップを発揮して全体を動かすということが、どれほど難しいことか、その集団が大きくなればなるほど難しくなり、責任も大きくなる。自分にできることからチャレンジしていくしかないと思うので、広い視野を持って物事を俯瞰的に見る能力を身につけていけるようにこれからも精進していきたい。

また、さらに深めたいと感じた内容は、教育活動全体を通じたキャリア教育についてである。体育という授業はやらせっぱなしになる可能性があり得るのだが、私は指導する際、保健と体育という２つの教科をリンクさせることを心がけていた。そこに今回の研修で学んだ、生徒に学ぶ意義を理解させることでより生徒が考え、よりよい活動に繋げることができたと感じている。今後はさらに生徒がレベルアップできるようにし、生涯、生徒が健康を保つために自分に合った競技・種目を見つけ、自ら選択して運動を行えるよう指導していきたい。

《 秋 田 県 主 催 研 修 》

A講座　　高等学校新任学年主任研修講座

教諭　宮川　皇子

Ⅰ期：令和５年５月２３日（火）
○望まれる学年主任像と学年主任の役割（講義） 秋田県総合教育センター　スーパーアドバイザー　樋口　　隆　先生
○学年経営の実際（実践発表） 秋田県立横手青陵学院高等学校　教諭　佐藤　　寿　先生 秋田県立湯沢高等学校　教諭　三浦　　亮　先生
○学年経営と組織マネジメントの基礎（講義・演習） 秋田県総合教育センター　主任指導主事　山田　直康　先生
Ⅱ期：令和５年６月２２日（木）
○生徒指導における学年主任の役割（講義・演習） 秋田県総合教育センター　指導主事　高橋真理奈　先生
○学年経営における課題への対応（協議） 秋田県総合教育センター　指導主事　鈴木　紀子　先生
○思春期の揺れと成長を共に歩む（講話） 秋田赤十字病院診療センター　臨床心理士　丸山真理子　先生

〈年度当初の現状〉

１年部を担当している。今年度の入学生は男子２４名、女子７名、計３１名で２クラスである。部活動加入状況は運動部が２０名、文化部が１名である。また、寮生活をする生徒が７名いる。

生徒数は少ないものの、いろいろな面で偏りがある。学習能力及び作業能力の差も

大きい。良好な人間関係を築かせ、一人ひとりが活躍できる学習環境づくりが必要である。また、運動部及び寮生が多いため、生活面の支援を強化して自己管理能力を身につけさせるとともに、学業と部活動の両立を促す必要がある。

〈研修を終えて〉

情報共有し共通理解を図ることが大切だが、本当の意味での共通理解というものを考えさせられた。情報の受け止め方、理解の仕方は人それぞれである。スタッフ全員が同じ程度で理解できているのか、報告・連絡・相談の感覚が合っているのかなどを考えたとき、それぞれに違う感覚をすり合わせる必要がある。そして、納得しなければ人は動かない。同じ目標を達成するためにチームで課題と向き合うためには、状況及び情報を正しく解釈し、その内容の理解と納得が促進されるように、学年スタッフに伝えることができるよう努めなければならないと強く感じた。

生徒指導においては、組織的に対応する必要があり、ここでも共通理解というキーワードが出てくる。加えて、生徒・保護者・学年スタッフの日頃からの人間関係が大切である。生徒指導上の問題行動は未然防止が理想だが、難しいことも多い。当事者とその保護者、関係生徒とその保護者の理解（納得）が得られる対応が求められる。

生徒は多様でありさまざまな悩みや課題を抱えている。そして、生徒は常に変化している。生徒の実態把握に努め、些細な変化にも気づくことができるよう、日頃の何気ない場面でもコミュニケーションを大切にしたい。そして、家庭とも連携して課題と向き合うことができるよう、信頼関係を築いておくことが重要であると改めて感じた。

最後に、学校全体の視点から教育目標の実現に向けて、学年主任としての役割をイメージし、学年スタッフの個性や強みを生かした学年経営を目指していきたい。そして、生徒一人ひとりの成長に力を尽くしたい。

Ｃ講座　「家庭や地域の生活を想像する資質・能力」の育成に向けた授業づくり―高等学校家庭科―」を振り返って

家庭科：教諭　小松　久子

１　研修について

（１）研修名：Ｃ-２４「家庭や地域の生活を想像する資質・能力」の育成に向けた授業づくり―高等学校家庭科―」

（２）日　時：令和５年　６月　２９日（木）

（３）場　所：秋田県総合教育センター

（４）日　程：令和５年　６月　２９日（木）　１０：００～１６：１５

10：00～10：10　オリエンテーション

10：10～12：00〈講義・協議・演習〉単元構想と授業づくりのポイント

13：00～15：00〈講義・協議〉内容Ｃにおける「金融教育」の指導の在り方

15：15～16：05〈講義・演習〉社会の変化に対応した高等学校家庭科の授業

２．研修内容

（１）〈講義・協議・演習〉単元構想と授業づくりのポイント

単元　→　内容のまとまりを組み合わせ、学校・生徒の実態に合わせて展開する

・単元構想をすることで、指導もれ・評価もれをなくすだけでなく･･･

①限られた授業時数で効果的な授業を展開する

②「主体的・対話的で深い学び」を実現する

③「指導と評価の一体的な充実を図る

・単元の設定は、学習指導要領に基づき、解説に示された配慮事項及び各内容の特質を踏まえるとともに、内容 A から D までの各項目及び指導事項との関連を見極め、相互に有機的な関連を図り学習が展開されるように配慮する。また、学校、地域の実態、生徒の興味・関心や学習経験を踏まえ、単元を設定する。そのため、教科書の「第〇章」は「単元」例になるかもしれないが、「単元」そのものを示したものではない。

・学習活動では、「考える」「話し合う」「発表する」など、ねらいを達成するために何をするのかを書く。「･･･を理解する」という表現は学習活動にはあたらないため注意する。

・家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育む授業づくりのためには、単元や授業の目標を明確にした上で生徒が「見方・考え方」をどのように働かせるのかが重要である。そのため、家庭科における「見方・考え方」を働かせられるよう、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかを明確にして授業を構想する必要がある。

（２）〈講義・協議〉内容Ｃにおける「金融教育」の指導の在り方

（講師・株式会社北都銀行　取締役専務執行役員　笹渕　一史　様）

・金融知識が必要な背景を説明し、資産形成の基本を説明する必要がある。
・収入の範囲内で暮らすことが自立の基本である。
・自己投資額は成長のために必要なものである。
・マネーフローの変化は生徒に教えなくても、教師は知っておく必要がある。
・理解を深めさせるには、生徒に支出の現実を理解してもらうのがよい。
・経済状況が厳しい生徒に対しても、今頑張れば未来が広がることを認識してもらう。
・クラス内での理解力の差には、ケーススタディー方式の導入が有効だと考えられる。
・１８～１９歳の消費者問題が増加しており、増加しているのは「美」と「金」に関するもの。

（３）〈講義・演習〉社会の変化に対応した高等学校家庭科の授業

少子高齢化、家族形態の多様化、消費生活の変化、食生活の多様化、家庭・地域の教育力の低下、インターネットや携帯電話等の普及、外食産業の発達と食の安全、感染症の脅威、環境問題、グローバル化･･･等

これら全てに対応させ、新しい情報を授業に取り入れていくことは難しい
そのため･･･

様々な課題に対して自分事として考えられる授業を展開するとともに、情報収集能力を身に付けさせる必要がある。それは、単に情報や知識を集めるだけでなく、情報・知識を活用する授業でなければならない。また、ICT 環境の整備とその活用により、全ての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる必要がある。

３．研修成果と今後の課題

単元構想について改めて研修を受け､自分の指導内容が小中学校の既習事項であったり、指導内容や評価のもれがあったりするのではないかと考えられた。今一度学習指導要領を読み込み、単元計画や評価計画を作成する必要があると改めて感じた。また、演習では、単元構想をするにあたっては単元を貫く課題を設定し、単元の初めに生徒に課題意識をもたせられるようにする必要があることも学んだ。これについては、研修後に２年家庭総合の保育分野において実践したが、単元を貫く課題を設定することで、学習全体を通して生徒がどのように変容していくのかを見取ることができ、評価にもつなげることができた。

金融教育については未だに苦手意識があるので、授業で押さえるべきポイントや授業づくりのヒントを分かりやすく丁寧に教えていただき、大変有意義な研修となった。演習でも授業に活かすことができる様々なアイディアを他校の先生方と共有でき、今後の授業づくりへの不安を解消することができた。

研修全体を通じて、家庭科は指導内容が多岐に渡り、常に様々な情報をキャッチしながら授業づくりをしていかなければならないと改めて感じた。生徒が一生活者としてたくましく生きていけるよう、今後も研修を重ねて授業改善をしていきたい。